

秋田高校「北雄の翼2021」エンパワーメントプログラム

秋田高校「北雄の翼」とは

2018年、秋田高校独自の海外研修プログラムである「北雄の翼」が実施されました。アメリカ合衆国ボストン、ニューヨークにおいて「将来への高い志形成」「英語をツールとする国際理解」「リーダー像の形成」を目的に、他国生との英語クラスや交流プログラム、現地で活躍する日本人との交流、また大学や施設訪問を行う等の、本校独自の海外研修プログラムとなっています。一昨年は、7月14日から23日の10日間の日程で、43名の生徒が参加しました。

昨年度はコロナの影響によりプログラムは中止、今年度は8月2日～6日の5日間、本校において対面・オンラインを組み合わせた形での国際交流研修「北雄の翼2021 エンパワーメントプログラム」を実施しました。

第1回開催時より、本校同窓会から多大なご支援をいただいております。今年度のプログラムにも引き続きご協力いただき、41名の2年生が充実した5日間を過ごすことが出来ました。感謝申し上げます。

「北雄の翼2021」エンパワーメントプログラム 概要

・趣 旨：『キャリア教育・グローバルマインドの育成』

・・・加速するグローバル化、そして強いリーダーシップを求める世界情勢に対応する生徒を育成する。

・実施時期：2021年8/2(月)～8/6(金)

・会 場：本校教室

・内 容：対面式 + オンラインのハイブリッド型

●講師（国内留学生）とのディスカッションやプレゼン

●海外大学キャンパスツアー、海外で活躍するゲストスピーカー(外国人 or 現地の日本人)の講演 など

・カリキュラム概要：

	オンラインプログラム等	ディスカッション等	プロジェクト
8/2(月)	オープニングセレモニー・自己紹介	バーチャルセッション準備	効果的なプレゼンとは
8/3(火)	The University of British Columbia (カナダ) 学生とのオンライン交流	Positive Thinking について考える	「地域活性化イベント」
8/4(水)	Jiya Janowitz 氏 模擬授業 スタンフォード大卒 エンジニア(宇宙工学)	My Identity について考える	「フードロスについて」
8/5(木)	高原 正樹 氏 講演 (ジेटロ シドニー事務所長)	Leadership について考える	「ダイバーシティ社会」
8/6(金)	畠山 健介 氏 講演 (元ラグビー日本代表 ボストン在住)	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション クロージングセレモニー

参加生徒の感想

●自分の英語力じゃ何も伝わらないと勝手に決めつけていたけど変わるならこの夏しかない！と思って勇気を出して本当に良かったと思っている。チャレンジなどの面以外でもたくさんの社会問題についてじっくり考えられていい機会となった。世界の現状を捉え、考えることで、自分がこれから何をすべきかを考えることができた。

●コミュニケーションをとる中で大切なことは、自分の思いや考えを正しく伝えようとするのではなく、たとえ間違った言い方でもなんとかして伝えようとする意欲だということを感じた。雑談の中でグループリーダーの方に質問されたとき、表現の仕方がわからず単語の羅列のような答え方になってしまったときがあったが、それでもグループリーダーの方が伝えたいことを汲み取ってくださり、自分の考えが伝わったことがあった。確かに正しく伝えられるように単語や文法を勉強することは必要だと思うが、相手とコミュニケーションをとるときは、黙ってしまうよりもどうにかして伝えようと言葉を発することの方が大切だと思ったので、このことは忘れないようにしたい。また、わからなかったときに周りに流されてわかったようなふりをするのではなく、きちんとわかっていないという正直な意思表示が大切だということも感じられたので、自分のことを、周りに合わせるのではなくしっかりと主張することもこれからの生活の中で意識していきたい。



●UBC では海外大学の様子がわかって楽しかったし、Jiya さんのお話は正直難しかったけれど貴重なお話を聞いてよかった。JETRO の高原さんのお話海外生活の様子を知ることができて、日本との違いを知れて楽しかった。畠山さんのお話は一番心に残っていて、人生観や自分の目標などがなんとなく見えてきた気がする。「笑って死にたい」と何気なくおっしゃっていたが、その言葉が本当にかっこよかった。自分はネガティブな性格だが、畠山さんのように自信

を持って自分のことを話せるようになりたい。また、各トピックについてのプレゼンも本当に楽しかった。一番楽しかったのは地域のコミュニティについて新しいアイデアを出したときのプレゼンで、Group Leader も面白かったしプレゼンを楽しむことができてよかった。また、グループごとの話し合いの時間も楽しくて

英語でのコミュニケーションを楽しめたと、自分の英語が通じたのが嬉しかった。最後のプレゼンは本当に緊張したし、笑顔でやれたかどうか覚えていないけれど自信を持ってやれたと思う。1 分半以上も話す内容の原稿を書くことができたことにびっくりしたし、それを人前でしっかり話すことができたので自分の成長にびっくりした。

●本当に海外の人は人の前で話すのが上手。

いろんな国の英語に触れられて楽しかった。

言いたいことが伝わった時の面白さ。

これからの人生をすごく面白く、キラキラしてたくさんのものでいっぱいになれる気がする。そのエネルギーをもらった。

〇〇さんみたいないるんなところに気を配れる人になりたいと思った。

jiya さんの話を聞いて自分も仲間に入りたいと思った。

好きなことをたくさん持ちたいと思った。

もっと世の中のことを知りたいと思った！

次は絶対海外に行こうと思った！



●ダイバーシティについてのプログラムが一番印象に残っている。一応今までも差別偏見なく生きてきたつもりだったが、日本という狭い世界での心持ちだったんじゃないかと思わされた。グローバル化している世界の中で、日本などの国の区別があまり意味をなさなくなった時、自分が全く知らない言語や文化に世界に触れて、今までの日本の尺度に照らして考えたり、変な先入観を持ってしまったりすることがあるかもしれないと考えさせられた。そんな事にならないためにも、海外に出て、より広い視野を持ちたいと思った。



●5日間で、ここには書ききれないほどたくさんの学びがありました。その中から厳選して書きたいと思います。最初に、他の人も言っていたように、英語はコミュニケーションをとるための1つのツールでしかないということです。最初、私はグループリーダー達に完璧な英語を伝えようとしていて、どんどん進んでいくトピックに着いていくのに必死でした。しかしそれは間違いでした。グループリーダー達は完璧な英語でなくても理解してくれようとしていたし、ボディランゲージでも十分意図を伝えることができると知りました。

次に、間違いは悪いことではないということです。例えば、最初に言ったように、完璧な英語でなくてもいいし、プレゼンでセリフが飛んでもいい。大事なのはそこから学ぶことです。そうすれば失敗＝経験となり、少しずつ進歩できます。

最終日にお話を聞いた、元ラグビー日本代表の畠山さんも、「壁にぶち当たるということは、前進していたということ」とおっしゃっていました。だから、何度壁にぶち当たっても、自分はいま前進しているんだ！と考えることで諦めずにゴールまで進めると思います。また、私にとってあの空間は「間違いも歓迎される場所」であり、挑戦するのに最適の場所でした。

最後に、「No one is perfect」です。グループでのプレゼンや、最終日の個々でのプレゼンでそれを本当に強く感じました。誰しもが弱点を持っていて、また、誰しもがその人だけの長所を持っています。だから、個人が集まり、パズルのように弱点をカバーしあえば、perfectになれるのです。あの教室で、確かに私たちは互いを受け入れ、まさに perfect な団体であったと思います。



●なんというか、言葉で表しきれないほど楽しかったです。自分のプレゼンでは、スライドを使って笑顔で言いたいことを伝えることができました。でも、一番、嬉しかったのはあの部屋の雰囲気です。みんなが心から楽しんでいるのをほんとに強く感じて、私もノリノリで参加できたと、こんなふう感じられる環境はほんとに貴重だと思ったらほんとに泣きそうになりました笑この5日間の気持ちを忘れずに日々を過ごしていきたいと思いました。

【1年生へ・・・】

このプログラムでは、英語がどれくらいできるかじゃなく、自分自身の考えを常に持っているかが一番大切になると思います。ファシリテーターやグループリーダーは、ネイティブの人はいてもわずかで、日本人にも訛りがあるようにそれぞれ訛りがあります。ネイティブじゃない人の方が世界に多くいるので、学校ではネイティブの英語を聞くことが多いですが、こっちの方が実践的だなと思いました。自分から能動的に考え、それを伝えたり、聞いたりする良い実践の場だと思います。学校の勉強だけでは絶対に経験できない、貴重で夢のような体験になると思います。楽しみながら、お互いに刺激を与え合う素敵な時間を過ごしてください。それと、出会いを大切にしてください。

